

令和2年度 自然学校についてのアンケートから

本年度の自然学校推進事業は、新型コロナウイルス感染症の影響から、実施時期や期間、日程等の変更を余儀なくされました。県立南但馬自然学校（以下、本校）では、今後もより一層充実した環境づくりを目指すため、新型コロナウイルス感染症が流行している本年度に本校を利用した学校（以下、利用校）の皆様アンケートの回答にご協力いただきましたので、その結果を報告します。

1 アンケートの実施について

- (1) **期間** 令和2年9月4日（金）～12月4日（金）
- (2) **対象** 利用校の児童・保護者・教員〈表①〉
- (3) **方法** ①アンケート用紙を配付：本校から利用校へ（利用期間中）
②アンケート用紙を提出：利用校から本校へ（利用から約3週間後）

表① 対象の内訳

	児童	保護者	教員
対象校数（校）	37	29	38
回答数（人）	1,593	1,087	175

2 アンケートの集計結果

(1) 本校での自然学校に関して（本年度）

ア 主な体験活動

自然学校プログラムの再編成によって、利用校が以前に本校で実施したことのある体験活動が多く取り入れられました。〈図1-1〉

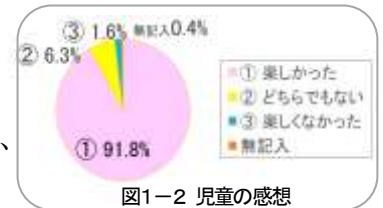
理由としては、“限られた時間の中でじっくりと時間をかけ、一つの内容に取り組む”といった点を重視し、“時間の見通しが立てやすく、指導体制の充実につながる”ことが想定されたためと考えられます。



イ 自然学校実施後の感想

(7) 児童

「楽しかった」が91.8%で最も多く、“友だちと協力できた”“他の班の子とも親しくなった”“自分たちの力だけで過ごせた”という記述が多くありました。また、「どちらでもない」「楽しくなかった」の理由の中には、期間が短くなったことに対して残念に思う内容もありました。〈図1-2〉



(4) 保護者

「よかった」が96.6%で最も多く、“普段できないことや、初めて経験する内容を体験できた”という記述が多くありました。一方、「よくなかった」の理由の中には、“コロナの感染源になったり、感染したりしないか気になった”という内容もありました。〈図1-3〉



(5) 児童の変化について

保護者の回答は「特に変わりなし」が大半を占め、教員の回答は「周りのことを考えて行動するようになった」「友人関係が上手になった」等の順となりました。〈図1-4〉

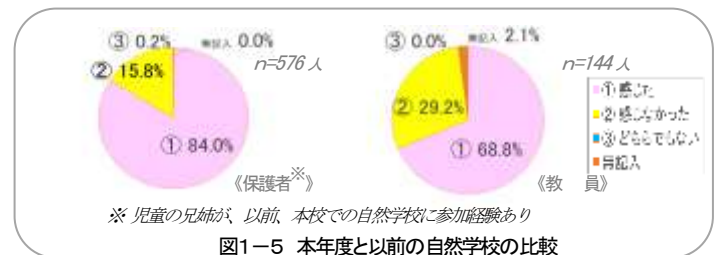


ウ 本年度と以前の自然学校の比較

児童の成長に違いがあると「感じた」が、それぞれ保護者※で84.0%、教員で68.8%と最も多くありました。〈図1-5〉

また、「どのように違ったか」の回答の中には、表②に示す機会を望む多くの記述がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響下でも、本校で楽しく無事に過ごせたことが、児童・保護者の満足度を高める結果となりました。そうした中、児童の変化に関する保護者の感想には、“特に変わりなし”が多くあり、児童が様々な経験をする機会とするためには、ある程度の宿泊日数が必要であると捉えられていることが分かりました。



表② 望まれた主な機会

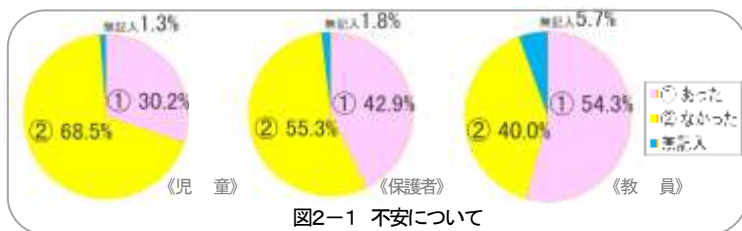
- ・自分を振り返り、新たな自分に気付く
- ・課題を解決することで、達成感を味わう
- ・しんどくても、我慢して乗り越える
- ・非日常体験の中で、日常のありがたさを感じる
- ・集団行動の場面で相手を思いやり、責任を持って取り組む

(2) 新型コロナウイルス感染症に関して

ア 不安について

不安が「あった」は教員で54.3%、保護者で42.9%、児童で30.2%、「なかった」は児童で68.5%、保護者で55.3%、教員で40.0%の順となりました。〈図2-1〉

「どのような場面を不安に感じたか」では、「バス内」が最も多く、次いで「食事中」「集合時」「生活時」「入浴時」「活動中」「休憩時」の順となりました。〈図2-2〉



イ 感染防止対策について

「マスクの着用」が最も多く、次いで「手指消毒」「手洗い」「うがい」「大声を出さない」「身体的距離の確保」「清掃」の順となりました。〈図2-3〉

自然学校期間中は、利用校による日々の健康観察や場面・状況に応じた声かけが行われ、児童が自主的に行動する様子から、きめ細かな指導が行き届いていたと思われます。

また、教員の回答の中には、「もしも児童に感染させてしまったらどうすればよいか」といった不安に関する記述もありましたが、児童への指導や家庭での習慣づけの協力依頼、利用施設内の定期的な換気、バスや本校食堂の座席配置の工夫等の対策が、図2-1に示される児童・保護者の不安の軽減につながったと考えられます。



(3) 自然学校の望ましい期間 (新型コロナウイルス感染症の影響がなかったと仮定して)

「4泊5日」及び「4泊5日以上」は児童で89.7%、保護者で85.1%、教員で69.1%、「4泊5日未満」は教員で29.7%、保護者で13.7%、児童で10.1%の順となりました。〈図3〉また、主な理由を分類すると、表③の通りとなりました。



本年度の短期間（「日帰り」「1泊2日」「2泊3日」）の自然学校を経験した中で、「4泊5日」及び「4泊5日以上」が望ましい期間とした回答は、児童・保護者・教員ともに、それぞれ約7割以上ありました。

そのうち、教員の回答の中には、「心配や不安なこと」が想定される記述が幾つかあり、望ましい期間は「4泊5日」が限度として捉えられていたと思われます。

これに対し、児童と保護者の回答の中には「心配や不安なこと」に関する記述もありましたが、「期待できること」に加えて更に、我慢して自ら乗り越えたり、新たなことに挑戦したりする経験の機会とするためには、「4泊5日」及び「4泊5日以上」の期間が多くの方から望まれていることが分かりました。

表③ 主な理由

	期待できること	心配や不安なこと
児童	・友情を深められる ・様々な体験活動ができる	・家族と離れること ・怪我に関して ・普段の生活との違い
保護者	※児童の上記内容と同様	・児童の精神面・体力(調)面 ・荷物や準備物(経済面)が増えること
教員	※児童の上記内容に加え ・活動の合間の『生活』の時間にも余裕を持って大切にしたい ・失敗を活かした成功体験を得る期間が望ましい	・児童の人間関係 ・児童の精神面・体力(調)面 ・職員の指導体制 ・授業時間の確保 ・配慮が必要な児童への対応

3 まとめ

本年度は4泊5日以上自然学校の実施が困難な状況となりましたが、アンケートによって自然学校推進事業は、「学校や家庭を離れた自然の中でじっくりと時間をかけ、自然体験による感動を味わうこと」により、「児童の成長につながる機会」として大きく期待されていることを改めて認識できました。

本校は、今後も利用校との連携をより一層深め、様々な自然体験の場を提供するとともに、安全・安心に向けた環境整備に努め、自然学校の充実に取り組んでいきたいと思っております。